



週刊原油

世界の原油情報がここに凝縮されています。
毎週木曜日午後発行



原油横ばい

発行日 : 2014/3/27

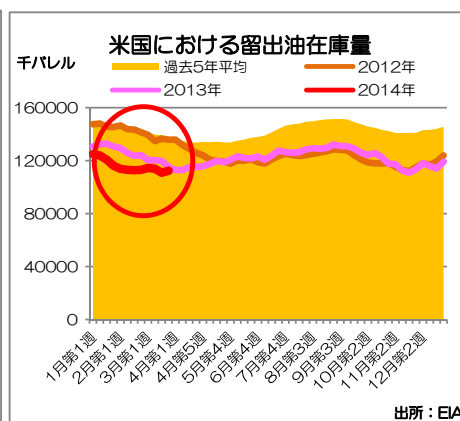
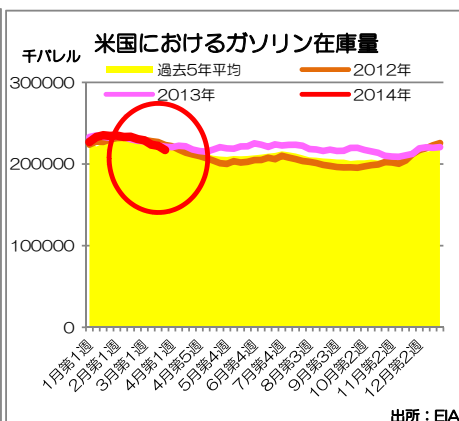
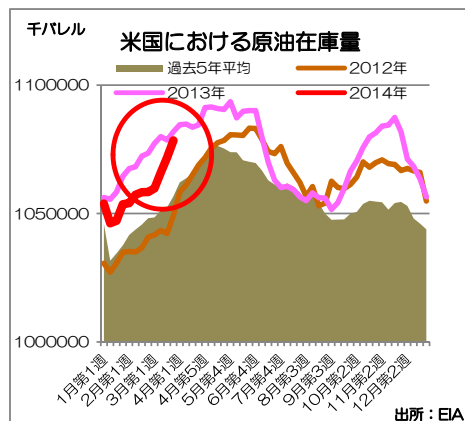


26日NY原油5月限は1.07ドル（1.08%）高の100.26ドル。夜間取引から底堅く推移すると、立会い開始後は上げ幅を拡大。米石油協会（API）統計での原油在庫の急増も、依然としてウクライナ情勢への警戒感が強いことや、2月の米耐久財受注が前月比2.2%増とマイナスだった前月からプラスに転じ、市場予想の1.0%増（ロイター通信調べ）を上回り、米景気の先行き楽観ムードの広がりを背景に、序盤に100.13ドルへ上昇した。しかし、米東部夏時間午前10時30分に発表された米エネルギー情報局（EIA）統計では前週比660万バレル増加（ロイター通信予想は270万バレル増）と10週連続して増加したことを受け、発表後に上げ幅を削った。ディスティレート（留出油）は160万バレル増（同140万バレル減）だったものの、WTIの受け渡し地オクラホマ州クッシングの在庫は8週連続で減少した。ただし、一方で、受渡場所となるオクラホマ州クッシング原油在庫は8週連続して減少し、ガソリンは在庫が予想以上に急減するとともに需要が今年初めて日量900万バレルを超えたことが好感されることとなり、その後は持ち直した。午後にはオバマ米大統領が、武力でクリミア編入を進めるロシアの動きに対し、国際秩序が試されているとの認識を示したこともあり、引け際には序盤の高値を上抜き、期近ベースで20日以来となる100.39ドルへと切り上がった。なお、立会い終了後の時間外取引では100.46ドルへと強含んだ。（日本先物情報ネットワーク）

TOPICS 米国の石油在庫 by EIA

米国の石油在庫

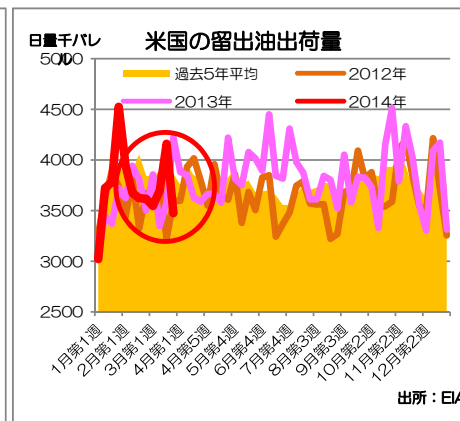
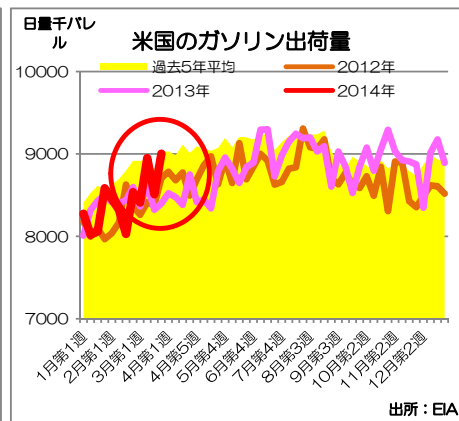
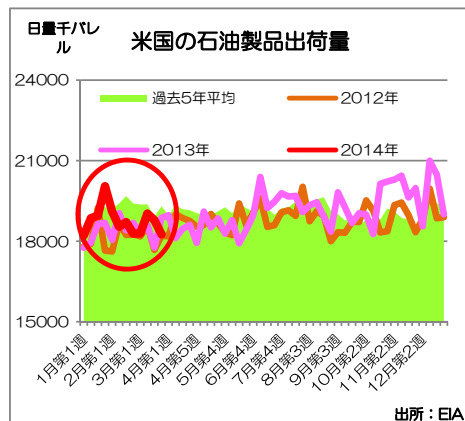
までの週	在庫量（千バレル）			前週比（千バレル）			前年同月比（%）			過去5年比（%）		
	原油在庫	ガソリン在庫	留出油在庫	原油	ガソリン	留出油	原油	ガソリン	留出油	原油	ガソリン	留出油
2014年1月3日	1,053,861	226,959	124,973	▲2,675	+6,243	+5,826	▲0.3%	+2.8%	+4.9%	+0.8%	+0.7%	▲15.6%
2014年1月10日	1,046,203	233,142	123,950	▲7,658	+6,183	▲1,023	▲0.7%	+2.7%	▲0.8%	+1.4%	+5.3%	▲17.2%
2014年1月17日	1,047,193	235,265	120,738	+990	+2,123	▲3,212	+0.1%	+0.9%	▲2.6%	+1.2%	+4.6%	▲18.6%
2014年1月24日	1,053,614	234,446	116,154	+6,421	▲819	▲4,584	+0.6%	▲0.3%	▲3.8%	+1.5%	+2.9%	▲21.3%
2014年1月31日	1,054,054	234,951	113,794	+440	+505	▲2,360	+0.0%	+0.2%	▲2.0%	+1.2%	+2.3%	▲22.8%
2014年2月7日	1,057,321	233,098	113,063	+3,267	▲1,853	▲731	+0.3%	▲0.8%	▲0.6%	+1.3%	+1.3%	▲22.5%
2014年2月14日	1,058,294	233,407	112,724	+973	+309	▲339	+0.1%	+0.1%	▲0.3%	+1.2%	+1.4%	▲21.7%
2014年2月21日	1,058,362	230,600	113,062	+68	▲2,807	+338	+0.0%	+1.2%	+0.3%	+1.0%	+0.8%	▲20.9%
2014年2月28日	1,059,791	228,996	114,476	+1,429	+1,604	+1,414	+0.1%	▲0.7%	+1.3%	+1.1%	+0.4%	▲19.1%
2014年3月7日	1,065,971	223,766	113,943	+6,180	▲5,230	▲533	+0.6%	▲2.3%	▲0.5%	+1.4%	▲1.0%	▲18.5%
2014年3月14日	1,071,821	222,299	110,846	+5,850	▲1,467	▲3,097	+0.5%	▲0.7%	▲2.7%	+1.8%	▲0.9%	▲20.4%
2014年3月21日	1,078,440	217,198	112,401	+6,619	▲5,101	+1,555	+0.6%	▲2.3%	+1.4%	+2.1%	▲2.1%	▲18.6%



TOPICS 米国の石油製品出荷量

石油製品出荷量

までの週	出荷量（日量千バレル）			前週比（日量千バレル）			前年同月比（％）			過去5年比（％）		
	石油製品	ガソリン	留出油	石油製品	ガソリン	留出油	石油製品	ガソリン	留出油	石油製品	ガソリン	留出油
1月3日	18,222	8,274	3,022	▲782	▲619	▲292	+2.6%	+3.3%	▲2.1%	▲0.6%	▲1.6%	▲9.3%
1月10日	18,858	8,021	3,724	+636	▲253	+702	+5.0%	▲3.6%	+8.1%	+2.3%	▲5.9%	+3.9%
1月17日	18,959	8,059	3,779	+101	+38	+55	+1.7%	▲4.4%	+12.1%	▲2.3%	▲6.5%	▲4.3%
1月24日	20,047	8,584	4,524	+1,088	+525	+745	+7.3%	+1.0%	+21.6%	+4.0%	+0.3%	+15.2%
1月31日	19,110	8,452	3,940	▲937	▲132	▲584	+5.9%	+0.4%	+8.7%	▲0.5%	▲2.0%	+1.7%
2月7日	18,541	8,325	3,675	▲569	▲127	▲265	▲2.7%	▲0.9%	▲6.8%	▲4.5%	▲4.3%	▲5.8%
2月14日	18,709	8,030	3,623	+168	▲295	▲52	+1.6%	▲4.8%	▲4.9%	▲4.9%	▲8.7%	▲10.6%
2月21日	18,283	8,535	3,617	▲426	+505	▲6	▲2.1%	▲0.7%	+3.3%	▲5.8%	▲4.3%	▲5.9%
2月28日	18,291	8,411	3,546	+8	▲124	▲71	▲0.0%	+0.6%	▲8.1%	▲5.6%	▲5.7%	▲7.4%
3月7日	19,027	8,949	3,697	+736	+538	+151	+2.3%	+3.7%	+10.4%	▲1.8%	+0.1%	▲5.1%
3月14日	18,783	8,512	4,159	▲244	▲437	+462	+5.7%	+2.3%	+16.2%	▲0.7%	▲3.5%	+9.7%
3月21日	18,257	9,002	3,476	▲526	+490	▲683	▲3.3%	+7.2%	▲17.7%	▲5.4%	▲0.2%	▲10.1%



米国の原油在庫は、10週連続の増加で、3月21日までの週は前週比+661万バレルと多かった。ガソリン在庫は過去5年平均よりも3週連続で少なくなっている。留出油在庫は過去5年平均よりも▲18.6%少ない。少ない割合が減少している。

米国の石油製品出荷量は、石油製品と留出油の出荷量が前週比マイナスとなったが、ガソリンは前週比日量49万バレル増加。過去5年比ではほぼ同じ水準になった。

TOPICs 米国の原油生産量

米国産原油の生産量

日量千バレル	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	前週比	前年比	前年比%	過去5年平均	過去5年平均比
1月第1週	4,935	5,507	5,575	5,844	7,002	8,145	+24	+1,143	+16.3%	6,415	+1,730
1月第2週	4,917	5,496	5,205	5,726	7,041	8,159	+14	+1,118	+15.9%	5,336	+2,823
1月第3週	5,052	5,404	5,321	5,722	6,989	8,052	▲107	+1,063	+15.2%	5,375	+2,677
1月第4週	5,045	5,421	5,568	5,720	6,993	8,044	▲8	+1,051	+15.0%	5,439	+2,606
2月第1週	5,235	5,403	5,597	5,763	6,997	8,044	+0	+1,047	+15.0%	5,500	+2,545
2月第2週	5,327	5,475	5,610	5,819	7,064	8,132	+88	+1,068	+15.1%	5,558	+2,574
2月第3週	5,323	5,482	5,604	5,817	7,118	8,148	+16	+1,030	+14.5%	5,557	+2,592
2月第4週	5,300	5,505	5,591	5,814	7,096	8,059	▲89	+963	+13.6%	5,553	+2,507
3月第1週	5,373	5,510	5,593	5,806	7,093	8,077	+18	+984	+13.9%	5,571	+2,507
3月第2週	5,401	5,527	5,591	5,830	7,159	8,182	+105	+1,023	+14.3%	5,587	+2,595
3月第3週	5,414	5,540	5,570	5,826	7,150	8,215	+33	+1,065	+14.9%	5,588	+2,628

米国の原油生産量は3週連続で増加しており、前年比で日量+106万バレル増、過去5年平均比では日量+262万バレル増である。

石油精製設備稼働率

%	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	前週比	前年比	過去5年平均	過去5年平均比
1月第1週	84.6	79.9	88.0	85.6	89.1	92.3	+1.9	+3.2	85.4	+6.9
1月第2週	85.2	81.3	86.4	83.7	87.9	90.0	▲2.3	+2.1	84.9	+5.1
1月第3週	83.3	78.4	83.0	82.2	83.6	86.5	▲3.5	+2.9	82.7	+3.8
1月第4週	82.5	78.5	81.8	81.8	85.0	88.2	+1.7	+3.2	81.9	+6.3
2月第1週	83.5	77.7	84.5	82.8	84.2	86.1	▲2.1	+1.9	82.6	+3.5
2月第2週	81.6	79.1	84.7	84.0	83.8	87.1	+1.0	+3.3	82.9	+4.2
2月第3週	82.3	79.8	81.2	85.5	82.9	86.8	▲0.3	+3.9	82.5	+4.3
2月第4週	81.4	81.2	79.4	83.6	85.1	88.0	+1.2	+2.9	82.1	+5.9
3月第1週	83.1	81.9	80.9	83.9	82.2	87.4	▲0.6	+5.2	83.1	+4.3
3月第2週	82.7	80.7	82.0	82.7	81.0	86.0	▲1.4	+5.0	82.6	+3.4
3月第3週	82.1	80.6	83.4	82.2	83.5	85.6	▲0.4	+2.1	82.4	+3.2
3月第4週	82.0	81.1	84.1	84.5	85.7	86.0	+0.4	+0.3	82.8	+2.9

米国の石油精製設備稼働率は86%に少し上昇。過去5年平均比より+2.9%高い稼働率となっている。

原油輸入量は前年同月比日量▲54万バレル減、過去5年比では▲105万バレル減の日量761万バレル。

TOPICs 米国の原油輸入量

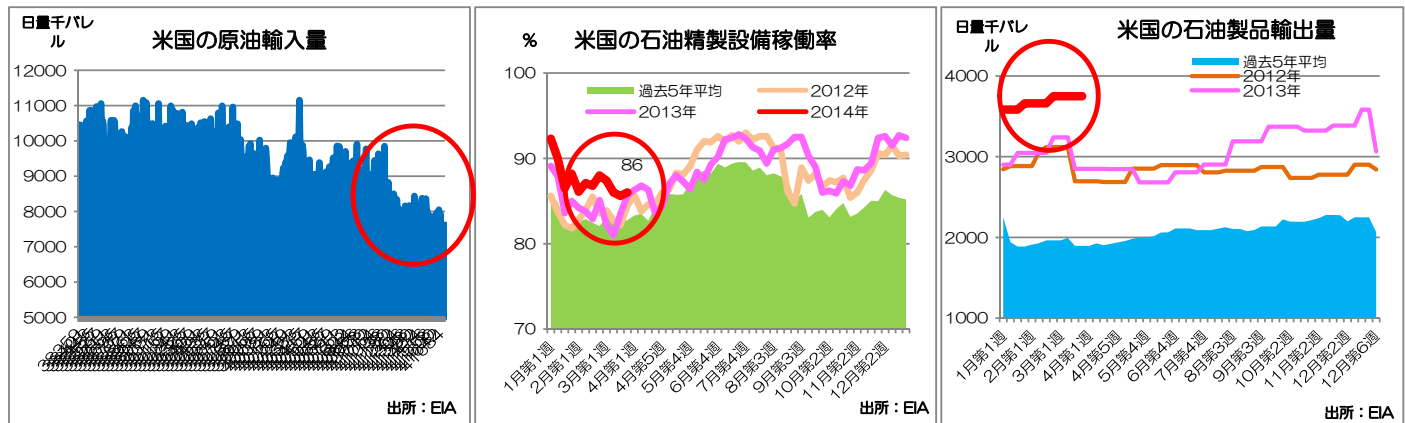
米国の原油輸入量

日量千バレル	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	過去5年平均	前週比		前年同月比		過去5年比	
							日量千バレル	%	日量千バレル	%	日量千バレル	%
1月第1週	8355	8895	9,907	8342	7961	8991	+466	+6.2%	▲381	▲4.6%	▲1,030	▲11.5%
1月第2週	8895	8999	8,265	8030	6889	9255	▲312	▲3.7%	▲1,141	▲14.2%	▲2,366	▲25.6%
1月第3週	8540	9385	8,853	7730	7544	9360	▲300	▲3.7%	▲186	▲2.4%	▲1,816	▲19.4%
1月第4週	7867	9014	8,880	8,068	8048	9,105	+338	+4.4%	▲20	▲0.2%	▲1,057	▲11.6%
2月第1週	8426	8909	8,413	7,569	6887	9,260	▲499	▲6.2%	▲682	▲9.0%	▲2,373	▲25.6%
2月第2週	8342	8266	8,756	7,513	7929	8,951	▲56	▲0.7%	+416	+5.5%	▲1,022	▲11.4%
2月第3週	8548	8106	9,091	7,689	7421	8,928	+176	+2.3%	▲268	▲3.5%	▲1,507	▲16.9%
2月第4週	9084	8010	9,187	7,958	7037	9,002	+269	+3.5%	▲921	▲11.6%	▲1,965	▲21.8%
3月第1週	9236	8300	8,712	7,308	7112	8,943	▲650	▲8.2%	▲196	▲2.7%	▲1,831	▲20.5%
3月第2週	8492	8681	8,716	7,535	7311	9,112	+227	+3.1%	▲224	▲3.0%	▲1,801	▲19.8%
3月第3週	8428	8987	8,224	7,317	7309	8,857	▲218	▲2.9%	▲8	▲0.1%	▲1,548	▲17.5%
3月第4週	9397	9128	9,269	8,158	7617	9,215	+841	+11.5%	▲541	▲6.6%	▲1,598	▲17.3%

TOPICS 米国の石油製品輸出入量

までの週	輸出入量（日量千バレル）			前年同期輸出入量（日量千バレル）			前年同月比（日量千バレル）		
	石油製品輸入量	石油製品輸出量	ネット輸入量	石油製品輸入量	石油製品輸出量	ネット輸入量	石油製品輸入量	石油製品輸出量	ネット輸入量
1月3日	1,422	3,583	▲2,161	2,094	2,901	▲672	▲620	+682	▲1,302
1月10日	1,378	3,583	▲2,205	1,778	2,901	▲1,123	▲672	+682	▲1,354
1月17日	1,659	3,583	▲1,924	2,161	3,047	▲886	▲400	+682	▲1,082
1月24日	1,866	3,661	▲1,795	2,135	3,047	▲912	▲502	+536	▲1,038
1月31日	1,962	3,661	▲1,699	1,761	3,047	▲1,286	▲269	+614	▲883
2月7日	1,771	3,661	▲1,890	2,066	3,047	▲981	+201	+614	▲413
2月14日	1,656	3,661	▲2,005	1,927	3,047	▲1,120	▲295	+614	▲909
2月21日	1,601	3,749	▲2,148	1,780	3,239	▲1,459	▲271	+614	▲885
2月28日	1,902	3,749	▲1,847	2,027	3,239	▲1,212	▲179	+510	▲689
3月7日	1,844	3,749	▲1,905	2,200	3,239	▲1,039	▲125	+510	▲635
3月14日	1,815	3,749	▲1,934	1,561	2,849	▲1,288	▲356	+510	▲866
3月21日	1,887	3,749	▲1,862	1,565	2,849	▲1,284	+254	+900	▲646

石油製品輸出量は前年比日量90万バレル増。輸入量は25万バレル増でネット輸入量は▲64万バレル減（輸出が輸入より多い）



TOPICS クリミア問題以後のロシアの原油生産 by Platts

ロシアは、経済制裁を受けて原油生産の成長が止まるか？

昨年6月頃はロシアは世界最大の原油生産者に近い将来となると見られていた。ここ数年ロシアの原油生産量はサウジアラビアを抜いて過去数か月増加しており、今年2月には平均日量1053万バレルに及んでいる。北海油田の英国、ノルウェー、デンマークのような生産量が減少する兆しは、ロシアでは技術開発と東シベリア等での新たな油田開発により今のところ見られない。地理的、及び技術的な懸念が無いなら、モスクワの原油生産を加速させることに影響を与えるような要因は何だろうか？

いま最も顕著な要因は、クリミア半島をめぐる米国やEU諸国による経済制裁である。2014年の最初の3カ月で約700億ドルの資金がロシアから引き上げられ、この金額は2013年1年の額を上回る。バラクオバマ米大統領とデビッドキャメロン英首相は、まだ特段の方策を表明されていないが、ロシアのエネルギー分野に対して経済制裁を加えることは検討されており、将来米国が欧州による経済制裁があるとの思惑が広がっている。ロシアの原油や天然ガス購入の禁止は欧州がロシアのエネルギーに依存しているために少なくとも今はなさそうである。しかし、輸入国のロシアに対する代金支払は難しくなる可能性がある。この方法はイランに対する2012年の世界規模の経済制裁で効果を発揮している。問題は、イラン原油の継続購入国である中国、日本、韓国、インド、トルコ、及び台湾であった。これらの国はイランに対する原油購入代金の支払いに新たな手立てを作る必要があった。ロシアにとっても、原油の販売代金を手にするには何等かの対策が必要となり、その構築はかなり難しいだろう。イランに対して行われたもう一つの制裁は、イランのエネルギー開発投資の禁止であった。同様な制裁はロシアに対しても行われるだろう。そうなれば、モスクワが現状の原油生産水準を将来も保つことに影響を及ぼすはずである。多くの西側石油メジャーがロシアにおいて原油の共同開発を行っているが、クリミアの危機がより深刻になり、経済制裁が現実化すれば、それらの企業が資金をロシアにそのままおいておくことを想像するのは難しい。それらの企業とは、ExxonMobil, Shell, Chevron, Eni 及びStatoilである。（つづく）

これらの企業は今のところ口を閉じているが、非常に強い関心を持っていると思われる。一部のメジャーはロシアが開発案件の油田やリグ、ライセンス等の資産を国有化することを恐れている。

ところでロシアに対する経済制裁はロシアの原油生産量を減少させるだろうか？

すぐには減少しないと思われる。ロシア国内のオイルメジャーは、潤沢な資金を持っており、国家の保護を受けているので原油の供給が滞ることはないだろう。例えば欧州と米国の購入者が将来ロシア産原油購入に制約を受けることになっても、ロシアは他に販売する市場を見つけるだろう。例えばRosneft CEOのIgor Sechin氏は、今週ニューデリーで原油をインドに売ることを協議している。

中国、日本、韓国はロシアからの原油購入を増やすだろう。実際に中国はロシアとの間で原油購入量を増量する契約に調印している。

ロシアに対して更なる国際的な経済制裁が将来にあるとしても、ロシア原油を購入する世界の需要を抑えることはできないだろう。この戦略は米国がその金融システムを通じてイランから原油を輸入量を減らそうとして使ったものである。ボールはロシア側のコートにあり、クリミア問題を拡大させないような目論見をないがしろにしている。今のところ、モスクワの主要歳入源に危険は迫っていない。長年原油生産は天井を打ち、減少に転じるという説が述べられてきた。2010年に初めて日量1000万バレルの生産が記録されて以来ほとんど毎年原油生産はピークとなり、減少すると多くのアナリストが述べてきた。モスクワは、常にそれが間違いであるということを証明してきた。しかし今ロシアは世界からの孤立、経済的沈滞、及び経済制裁の恐れにより、最も強力な政治的武器である原油と天然ガスを破壊される脅威に直面している。

TOPICS ロシアに対するさらなる経済制裁が続けば、イタリアは天然ガスの代替ソースを探す必要に迫られる

モスクワに対する国際的な更なる経済制裁の発動が行われても、すぐにロシアからイタリアに供給されている天然ガスが途絶えるわけではないが、そうした事態を想定して代替ソースを探す必要があると、イタリア内閣対外情報局Copasir長官のGiacomo Stucchi氏は述べている。3月26日朝のPlattsとのインタビューで、Stucchi長官は、イタリアは天然ガスの備蓄を数か月分持っているが、経済制裁が発動されればロシアからの天然ガスの供給が長期に亘って止まることが想定され、そうした事態に対応する必要があると述べた。

米国のバラクオバマ大統領は、水曜日の午後欧州米国会議において「我々はもしロシアがウクライナに侵入するならばより大きな経済封鎖を行うことを協議している」と述べた。明らかにエネルギーは、経済制裁の主要ターゲットであり、我々は強くそれを考慮せねばならないと大統領はレポーターに述べている。Stucchi氏は、ロシアに対するさらなる経済制裁は欧州にとっては微妙な問題であり、欧州諸国に対するエネルギー供給は工業生産に重要な役割を持っているので、慎重に扱われる必要があると述べている。彼は、各国が代替ソースを見つけるまで経済制裁を遅らせるという選択肢もあるという。彼は、天然ガス危機に直面して、現在計画中のエネルギーのインフラを整備するプロジェクトの完成を早めることを検討するのも視野に入れる必要があると、プロジェクトの概要は特定しなかったが述べている。Stucchi氏は、情報機関Stucchiは最近Eni社等の幹部と会合を開き、イタリアはロシアからの天然ガス輸入が止まった場合の対策について協議し、代替ソースの開拓について検討することとなったという。代替ソースとしては、アルジェリアやリビアからの輸入を増やすことも含まれるのかとの質問に対して、同氏はEniはそれらの国からの供給を増量することができるかどうかについて個々に検討していると述べた。

Eni社は安全を期して多くの供給源を確保しているという。

3月20日行われたイタリア下院の産業会議におけるヒアリングでEniのCEOのPaolo Scaroni氏は、ウクライナ危機によってもイタリアへの天然ガスの供給は途絶えていないと述べた。同氏は、危機はロシアからの供給全般が止まる場合と、ウクライナ経由の供給が止まる場合の二つある。どちらの場合も、代替ソースからの供給はできるだけ確保するよう努力すると述べている。同氏は、ロシアの問題と共に、リビアの問題も抱えているため、複雑になっていると付け加えた。もしアルジェリアからの供給にも問題が生じた場合、ロシアとアルジェリアが同時に無くなれば、供給確保は難しいという。しかし、イタリアは、ドイツよりは良い立場にある。イタリアはロシア産天然ガスの消費割合は30%でありロシアからの供給が止まってもなんとかやっていけるという。Nomisma EnergiaのDavide Tabarelli社長は、ロシアからの供給の問題はそれが長期に亘った場合であるという。火曜日のPlattsとのインタビューで彼は、仮に15日～20日間の供給停止程度であるならば、ガス需要が減少し再生可能燃料が増加して、在庫を放出するならば、大きな問題とはならないだろうと述べている。しかし、北アフリカからの供給に問題が生じて、かつロシアに対する輸出規制を含む経済規制が数週間ではなく、数か月に亘って行われるならば、供給システムに脅威が生じるものと思われるという。ロシアからの供給量を賄える他の代替ソースを考えると、彼はリビアからGreenstreamパイプラインによってイタリアへの輸送を最大にすることが、年間100億立方メートルとなり、さらにPanigagliaとLivornoターミナルからLNG船で供給することで年間60～70億立方メートルの供給となる。これは現在ゼロとなっている。(つづく)

イタリアのガス供給社Snam Rete Gasによれば、ロシアから2013年に輸入した天然ガス量は302.6億立方メートルである。Bentek Energy社のデータによれば、2014年の初め以来ロシアからT A Gパイプラインを通じて輸入されている天然ガスは、日量9600万立方メートルであり、2013年の日量8300万、2012年の日量6500万より増加している。またパイプラインの稼働率は96%に上っている。2番目に大きな供給源であるアルジェリアの天然ガスは、2014年Transmedパイプラインにより日量2500万立方メートル輸入されている。2013年は日量3400万で、2012年は日量5700万で毎年減少しており、パイプライン稼働率も2012年の61%から2014年は27%に落ちている。

リビアからGreenstreamパイプラインにより輸入されている天然ガスは2014年は日量1500万立方メートルで、2013年の1600万、2012年の1800万から減少し、2014年のパイプライン稼働率は52%に落ちている。同様に北欧からTransitgasパイプラインを通じてイタリアに供給されている天然ガスは、2014年は日量約1600万立方メートルで2012年のパイプライン稼働率が45%であったのに対し、今年は28%である。GreenstreamとTransmedパイプラインの稼働率を上げることができたとしても、リビアとアルジェリアの天然ガス生産と輸出の減少が問題となる。

ロシアからの供給が止まった場合、EniとAlgeria's Sonatrach社の交渉でどれだけの天然ガス輸出が増量できるかが問題となる。アルジェリア政府出資企業のSonatrach社のAbdelhamid Zerguine社長は、1月にアルジェリアの原油とガス生産は2013年に▲4%減少して1億9000万トン（日量381万バレル）になったと述べている。

同氏は、生産減少の原因はいくつかの油田生産の自然減であり、また2013年1月にテロリストの攻撃にあったIn Amenasガスプラントの生産減のためだという。同氏は輸出は2012年に比べて▲7%、▲1億トン減少しているという。Snam Rete Gasデータによれば、アルジェリアからイタリアへの天然ガス輸送経路は、the Mazara del Vallo経由が2013年▲40.2%減少して124.6億立方メートルになった。リビアからイタリアへの天然ガス供給量は2013年▲11.9%減少して57億立方メートルになっている。2013年11月末にパイプラインの起点にあたるEniとリビア政府所有のNOCのJ/VであるMellitah oil and gas社に対する抗議により、Greenstreamパイプラインの供給が8日間停止した。

今後の予想

ウクライナ問題は、ロシアと欧米の政治的駆け引きに過ぎないと思っている。しかし、しばしばそうしたゲームは、のっぴきならない事態にまで進展する可能性を秘めている。ロシアと欧州はエネルギーという絆で強く結ばれており、経済的にも金融的にも深いつながりがある。一方オバマ大統領は、この際ロシア経済を弱体化させようという目論見があるようだ。お互いに、間合いを測りながらナイフを振っている。

欧州は、冬場が過ぎたとはいうものの火力発電の燃料などに夏場でも天然ガスは必要であり、代替ソースは北海油田か北アフリカ産であるが、それぞれに供給の問題があり簡単ではない。英国のみが米国からの輸入で賄うとロシアとの縁を切ろうとしているが、ドイツやイタリア、ポーランド等ロシアからのパイプラインによる原油や天然ガスの供給を直接受けている国はロシアに頼らざるを得ないようだ。だからロシアと欧州が軍事的対立になることはないと思っている。つまり金価格には影響ないだろう。しかし、原油や天然ガス価格は今後のオバマ大統領による経済封鎖で原油の輸出や代金の送金に支障が出るようなら、ある程度影響があるだろう。

米国の原油需給は在庫が増加し、またオクラホマ州クッシングからパイプラインの開通によって南部メキシコ湾の石油精製設備群に輸送された原油が南部で過去最大の在庫高となっている。こうした需給の崩れは当面の原油価格を下押しするだろう。

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMI」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行なっておりません。また、いかなる責任を持つものでもありません。本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかなるかを問わず、責任を負いません。

COMMIおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

発行元：



COMMODITY
INTELLIGENCE

株式会社コモディティ インテリジェンス4東京都中央区日本橋蛸殻町1
丁目11-3-310
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692